『秘境』を読んで

青森・大湊高校　２年　大久祐佳

合掌、ありがとうございます。

『秘境』を読んでいるとき、私はすごく不思議な感じがして、何となく秘境という所にいるような気がしました。

サヨが私と同じくらいの年で、一人、何年もの間自然の中で暮らしていると知ったとき、私はすごく驚きました。けれど、人間はもともと自然の中で暮らしていたのだから、私もサヨのように暮らせるのかもしれないと思いました。

一つ気になったことがあり、「人は一人じゃ生きられない」という風に書いてありました。私も確かにそうだと思いました。しかし、サヨは何年も一人で生きて来られたということに、私は少し矛盾しているのかな？　と思ったけれど、よく考えて、私は、サヨは一人で生きてきたのではないと気づきました。

確かに見た目は一人で生きているように見えるけれども、実は自然と一緒に生きているため、生きてこられたのだと思いました。

あと、サヨはいつも身近にいろんな神がいると言っていました。その部分を読んだとき不思議に思ったけれど、後々読んでいき、とても納得させられました。それと同時に、私はまだ神様ときちんと会話できていないのかな？　と少しショックでした。なのでこれからは、もっと神様を身近に感じて、会話をしていきたいと思いました。

あと、サヨはとても心の優しい人だと思いました。買い物に行ったとき、「ここにあるもの全部ほしい」と言っていたとき、私はすごくビックリしたけれど、サヨの考えを知ったとき、とても安心しました。現代のものを両親に見せたいという気持ちはとてもわかる気がしました。

15 歳の、現代を何も知らない女の子を連れてきて、こういう体験をさせるのは、ある意味いいのかもしれないが、サヨが「山に帰りたい」と言ったのを読んだとき、やっぱり自然の中で、両親のいるところで暮らしていたほうがいいのかなぁ？　と思いました。

難しいけれど、私だったら自然の中で暮らしてあげたいと思いました。だから、塚本さんもそれを考えて、もとの場所ではないけれど、そういう自然で静かなところに行ったのではないかな？ と私は思いました。

再　拝